



## 岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

「中国の牛肉の需要拡大が続いています・・・日本への影響は」

中国で、牛肉の需要が伸び続けています。国内生産量が増えるだけではなく、輸入量も急増しているのです。

健康から脂っこい豚肉より、脂身の少ない牛肉を選ぶケースが増えているため中国の国内価格の上昇も続いています。

国家統計局によると、中国の2022年の牛肉の生産量は、前年比3%増の718万トンと伸び続け過去最高を更新したのです。

日本の買い負けが加速して、牛丼の価格も品質も今までよりも落ち続けています。

この10年間でも、年平均10%増と高い伸びを維持しており、中国人の胃袋はどこまで貪欲に拡大していくのでしょうか。

豚から牛への転換で、飼育頭数は前年比4.1%増の1億216万頭で、今後も生産の増加が続いていきます。

困ったことに、輸入牛肉が急増していますので世界のバランスが崩れて行くこととなります。22年の輸入量は、同15.5%増の269万トンと急増しており、16年に日本の輸入量を超えてから、さらに拡大し日本の4.8倍に拡大してしまいました。

輸入先は、ブラジルやニュージーランド、オーストラリア、米国など25カ国に上るだけでなく、羊肉の拡大が著しくなっています。

輸入急増は需要増加になり、国内価格の高騰が背景にあります。農水省に当たる農業農村部によると、牛肉の全国平均小売価格は、同1.8%高の1キロ当たり91.08円(約1754円)と過去最高を更新。需要が落ちないことが心配の種となります。

このようになった原因は新型コロナ禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻で、飼料価格が高騰したためと言われてはいますが、実は中国の爆食からの爆買いが最大の原因なのです。12億の人口が食べたいだけ食べては世界に及ぼす影響がこれからもっと拡大していくことになります。

今年で最大の人口になったインドは肉食では無いので、このような食で世界に迷惑をかけるようなことは無いのです。

ご存じですか、インドは有数の牛肉の輸出が多い国なのです。それは蛋白質を牛乳から摂っていますが、宗教上から牛肉は食べないからなのです。

~~新商品のご紹介~~ 食べやすさ、使いやすさ、お買い求めやすさ 3拍子~~

◇おいしい十六穀米 35g×6

食べやすさ →玄米ベースの雑穀。決め手は吸水のしやすさです。冷めても美味しい

使いやすさ →35gの個包装タイプ。炊飯器の目盛で水加減ができる 1/4 カップは本品だけ

お求めやすさ→本体価格@298 円とお手頃価格。

■オートミール・もち麦などを、PB・ODMを認証工場での受託をしています。